

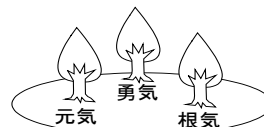
学校だより10月号



三保

本校ホームページアドレス

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/miho/>



令和元年10月1日

横浜市立三保小学校
TEL045-931-1037

スポーツで世界とつながる

校長 安富 江理

昼間はまだ暑さが残っていますが、日が暮れる早さや虫の音に秋を感じます。学習やスポーツによい季節になってきました。先月、本校では、4年生が愛川、5年生が三浦へ宿泊体験学習に行ってきました。4年生は、「一緒に見聞 楽しく学んでたすけあいかわ」、5年生は「真のはなたば」というみんなで決めたテーマに向かって、実行委員会を中心に準備を進め、活動に取り組みました。しおりを見て次の行動を考えたり、友達同士で協力し合ったりしながらよりよく活動する姿が素晴らしかったです。体験学習という意図的な活動を通して、子供たちは、学年のよさを実感し、様々な人、もの、ことに「つながる」ことができたのです。

ラグビーのワールドカップが日本で開催されています。20 国が参加し、全国 12 会場で熱戦が繰り広げられています。参加国が歩んできた歴史や環境が報道されたり、国際試合の前に斉唱する曲（アンセム）が話題になったりしています。試合前のハカが有名なニュージーランドの国歌は、1 番が英語、2 番はマオリ語になっているそうです。参加国のことを知ると、自分とその国がつながり、応援する気持ちがさらに高まっていきます。学校給食でも、ロシアやイギリスの食文化にふれるためのメニューを準備しています。ラグビーやオリンピック・パラリンピックを通して、世界中の人がつながります。

東日本大震災の被災地、ラグビーと縁が深い岩手県の釜石市も会場となっています。鶴住居復興スタジアムは、鶴住居小学校と釜石東中学校の跡地に建設されました。校舎は津波で全壊しましたが、子供は防災教育で学んだ「大きな地震がきたら自分が率先して津波から避難する」を実践し、命を守りました。釜石市の全小中学生の生存率が99.8パーセントだったことから「釜石の奇跡」と呼ばれました。ここで試合をしたウルグアイとフィジーの選手、観戦し声援を送っている人は8年前の震災のことを知っています。昨年、このスタジアムが完成したときのキックオフ宣言の中で、高校生の洞口さんは、支援への感謝と共に「釜石は世界とつながる」と力強いメッセージを伝えました。改めてこのメッセージが報道されたので、多くの人がこの試合とメッセージを重ね、釜石が世界とつながったことを実感したでしょう。

ラグビーは一定の条件を満たせば国籍にとらわれることなく、国の代表になれます。様々な国につながる選手が一つのチームとなり、国の代表として同じユニフォームを着て試合に臨みます。ラグビーは精神として、相手を思いやる、尊敬するなど、人と人との「つながり」を大切にしていると感じます。試合が終わったら、敵も味方も関係なくお互いを讃え合う、尊敬するというノーサイドの精神はよく知られています。日本とアイルランドの試合の後、勝った日本選手をアイルランドの選手が花道をつくって見送り、日本選手も同じようにアイルランドの選手を送り出したことも感動を呼びました。ほかにも、参加国の国歌を一緒に歌う、座席のごみを拾う、ロッカーを掃除するなど、選手、地元の方、観客など、人とのつながりに関わる心温まる取組が連日紹介されています。

人と人がつながったときに優しさや思いやりが生まれます。知識と知識がつながったときに新しい考えが生まれます。子供たちには、生きて働く知識をしっかりと身に付け、たくさんの人とのつながりで生かしてほしいと思っています。三保小はこれからも「未来をつくる本気の学び」を目指してESDやSDGsに取り組み、世界とつながっていきます。

